

■みちのく自然共生園とは

東北地方のきびしい自然と人とのかかわり合いによって育まれた文化や里の自然を体験し、楽しみながら学ぶことができる施設です。再生された里の田園風景、居久根、草原、湿地、牧野など、みちのくらしい動植物が豊かな里の自然を、散策しながら楽しめます。

■見どころ紹介

～里地の自然～

耕作地・水田・居久根

畑では、ソバや麦、青菜や蕪、豆類など東北地方の食文化にちなんだ作物を栽培しています。春は青麦が風にそよぎ、夏はソバの白い花が一面を覆い、秋は柿や栗が実ります。懐かしさとぬくもりのある、みちのくらしい里地の風景が楽しめます。

「居久根」とは屋敷林のことで、季節風を防ぎ、落葉や焚付けを採るための暮らしに欠かせない林でした。居久根に植えられた、田打ち桜とよばれるコブシが咲くころになると、その年の農作業が始まります。

～草原の自然～

展望野草園・サクラソウ園・放牧区

草が飼料や肥料として必需品であった時代には、里地に草原が維持されていました。草が利用されなくなると草原もなくなり、今では草原特有の動植物が絶滅に瀕しています。ここでは、かつて人の手で維持されていた草原（半自然草原）の再生を目指し、オキナグサ、サクラソウ、カワラナデシコ、キキョウなど、50種類ほどの野草を、この地域のタネから育てて増やしています。

放牧区ではヤギやヒツジを放牧し、ふれあい体験ができます。初夏に刈る羊毛は手仕事体験に利用しています。かつて草刈の時に使用した草泊りを復元してあります。

～水辺の自然～

湿生花園・ヨシ原・スゲ原・ヤナギ湿地林・小川

湿生花園では再生した湿地で、野草をタネから育てています。初夏から秋にかけて、カキツバタ、チダケサシ、クサレダマ、ヌマトラノオ、ミソハギ、コバギボウシ、サワギキョウ、オオニガナ等が咲きます。ヘイケホタルも生息するようになりました。

ヨシ原やスゲ原、ヤナギ湿地林は、かつての水田の跡地です。初夏のヨシ原ではオオヨシキリが子育てを行います。園内を流れる小川ではアブラハヤやスナヤツメ等の魚類、カワトンボ等の水生動物が生息しています。

～樹林の自然～

コナラ林・崖線樹林・ヤナギ林

コナラ林や崖線樹林では、下刈を行って明るい雑木林を再生し、樹林特有の野草を育成しています。春にはルリソウ、クリンソウ、初夏にはニッコウキスゲ、夏にはソバナ、秋にはキバナアキギリ等、四季折々の野草が咲きます。野草の豊かな雑木林の散策が楽しめます。



..... : 春の花野探勝おすすめコース(1,600m)

..... : 山羊ふれあい体験場所へのコース(230m)



～展望野草園からの蔵王の眺め～

快晴の日には、展望野草園の頂きから屏風岳、熊野岳など蔵王の山々の眺めが楽しめます。

また、東側には、北川を挟んでコナラの雑木林で覆われた里山地区や、こんもりとした釜房山が望めます。里山地区へは、ドックランの傍の橋を渡って、歩いて行けます。



～体験施設～

情報館

自然共生園の受付です。園内の見所や草花を、展示や映像などで紹介しています。草を素材としたクラフト等の体験ができるほか、イベント情報、野の花情報、生き物情報なども発信しています。ボランティアや会員活動の参加も随時募集しています。詳しくはスタッフまで。

知恵体験舎

板の間や縁側で、のんびりと休憩できます。体験イベントでは、農作業体験や、ここで採れた作物を使った食品加工体験など、みちのくの自然との共生が育んだ暮らしの知恵が学べます。

●お問い合わせ先：みちのく公園管理センター

TEL 0224-84-5991 (代表)

〒989-1505

宮城県柴田郡川崎町大字小野字二本松53-9

<http://www.michinoku-park.info/wp/>



今日はここを観てみよう！

■サクラソウ園・展望野草園

サクラソウ（位置D）

サクラソウ科の多年草で、やや湿った草地やカシワなどの疎林等に生えます。カシワは芽吹きが遅いので、地面のサクラソウは春の光を受けることができます。草原の減少や宅地開発、盗掘によって減少し、宮城県や国の絶滅危惧種に指定されています。畔などに細々と生えていたサクラソウを、ボランティアさんが中心となって守り殖やしています。花粉を運ぶマルハナバチが少なく、人の手で授粉して殖やしています。



オクウスギタンポポ（位置I）

宮城県や福島県など東北地方の太平洋側に分布する在来種のタンポポです。淡いクリーム色の花が特徴です。



今日はここを観てみよう！

■展望野草園

オキナグサ（位置E）

キンボウゲ科の多年草で、草原に生えます。かつては里地に身近な野草でしたが、草地の減少や盗掘によって幻の野草となってしまいました。白い毛の実を白髪に見立てて、この名前があります。宮沢賢治の童話の中でも「うすのしゅげ」の別名とともに美しく語られています。4月上旬から咲き始め、5月には白い綿毛のタネを飛ばします。消長が激しいので、6月にそのタネを適地に蒔く保全イベントを予定しています。



クサボケ（位置G）

クサボケは、草地や明るい雑木林に生える低木です。東北地方ではあまり多くはありません。実は果実酒に利用されます。庭木に植えられるボケは中国原産です。



今日はここを観てみよう！

■コナラ林

カタクリ（位置F）

春植物を代表する花で、5月上旬の木々の若葉が茂って林床が暗くなる頃には、休眠してしまいます。芽生えは糸のような姿で1年を終え、開花までは7~8年を要します。



イカリソウ（位置F）

メギ科の多年草で樹林に生えます。花の形が和舟のいかりに似ています。花の角の先には蜜があり、花蜂を呼びます。タネにはアリの餌がついており、タネを運びます。



リュウキンカ（位置F）

キンボウゲ科の多年草で、林内の湿地などに生えます。黄色に見えるのは花弁ではなく、ガクです。次第に茎が立ち黄金色の花を咲かせるので立金花の名があります。



今日はここを観てみよう！

■スミレの仲間

ニオイタチツボスミレ（位置A・F）

草地や明るい林に生え、同じ仲間のタチツボスミレより花色が濃く芯が白いのが特徴です。鼻が利く人には甘い香りがするそうです。



スミレ（位置・H）

スミレの代表種です。日当たりの良い場所に生えます。蟻がタネを運ぶので、舗装の継ぎ目に生えることもあります。ここでは白い花のアリアケスミレと混生しています。



エイザンスミレ（位置F）

深く切れ込む変わった葉のスミレです。花は白色から桃色まで変化があります。樹林に生えるスミレです。エイザンとは比叡山のことです。



今日はここを観てみよう！

■水辺の自然

ミツガシワ（位置B）

ミツガシワ科の多年草で、北国の湿地や浅い沼に生えます。カシワのような大きな三つ葉が名の由来となっています。太い茎を水中に伸ばして、広がります。



アカガエルの卵とオタマジャクシ（位置C）

他のカエルがまだ冬眠している3月に卵を産み、競争相手がいないため、成育に有利になると考えられています。オタマジャクシは真っ黒で日向に集まります。



オツネントンボ（位置C）

成虫で越冬するイトトンボです。このことから、越冬（おつねん）の名があります。夏に生まれた成虫は林で越冬し、春に産卵のために水辺を訪れます。

